

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1170500381		
法人名	株式会社 関東メディカル・ケア		
事業所名	グループホーム フローラ白岡西		
所在地	埼玉県南埼玉郡白岡町西10-13-9		
自己評価作成日	平成22年 7月10日	評価結果市町村受理日	平成22年 9月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kohyo-saitama.net/kaigosip/Top.do">http://www.kohyo-saitama.net/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ケアマネージメントサポートセンター		
所在地	埼玉県さいたま市中央区下落合五丁目10番5号		
訪問調査日	平成22年7月30日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>明るい家庭的な雰囲気を作り、個人の思いを大事にする。 利用者の自立能力を高めるための支援をする。</p>
---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>・理念に基づき、職員全員で利用者個々の思いを大切にしたケアに取り組まれている。 利用者一人ひとりが日常生活の中で、何らかの役割を持ち、その役割を果たす喜びと職員全員で利用者個々の楽しみのほか、レクリエーションやイベント企画など工夫を凝らし、充実した日常生活が送れるよう取り組まれている。 ・医療依存度の高い利用者の受入れ体制が整備されている。 系列事業の医療法人との24時間の連携体制がとられていることと医療的知識の習得を目的とした介護職員への定期的研修にも取り組まれ、医療依存度の高い利用者の受入れも行なわれている。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を各フロアに掲示し、朝礼等折に触れ確認し共有、実践につなげている。	地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念に基づき、利用者一人ひとりが何らかの役割を持ち、その人らしく、充実した日常生活を過ごされるようケアに取り組まれている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人員として日常的に交流している	町内で開催される社会福祉協議会主催の「お茶会」やさくら祭り等に利用者様参加していただき、地域の方達との交流を図っている。	お茶会・桜祭りなど地域催事や草取り・ごみゼロ運動など自治会活動への参加。その他、食事づくりや外出支援、踊り・歌・体操など各種ボランティアの受入れを行ない、地域との交流を積極的に図られている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	自治会に加入し、回覧板等で情報を得て集会所の清掃、草取り等利用者も参加して取り組んでいる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	重要事項の説明や事業所の現況等の報告、現在事業所で重点的に取り組んでいる事等、説明、意見交換しサービス向上に活かしている。	定期的に開催され、事業所からの報告のほか、参加者からも積極的に意見・提案が行なわれ、事業所運営に活かされている。非常災害対策をテーマとした会議も開催され、防火管理体制について検討されている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	町からの通達事項は、ファイルし不明な点は確認してケアサービスに活かせるようとりくんでいる。また生活保護担当の方を定期的に訪問し事業所の受け入れ体制等実情を伝え協力関係を築くようにしている。	更新申請時には利用者もいっしょに出向いたり、生活保護課への定期訪問や運営推進会議への参加を頂くほか、適宜事業所運営でのアドバイスも頂き、良好な協力関係を築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は原則一切行わない方針を貫いているが、安全面より考慮しフロア玄関の扉はテンキーにより施錠をしている。	全社研修が行なわれ、管理者及び全ての職員が身体拘束の内容とその弊害を認識し、身体拘束をしないケアに取り組まれている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修及び内部研修に参加し、虐待防止に対する理解、また虐待の防止は徹底されている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関しては社会福祉協議会擁護センターのパンフレットを配布し、理解を求め。実際、成年後見制度を利用されてる利用者があるので理解、活用している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結の際重要事項の読み合わせをしている。改定の際は通知し問い合わせには、説明をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族の意見、要望等は職員全員が充分傾聴する体制をとり申し送り時やフロア会議等で話し合い運営に反映させるよう努力している。	利用者については、日頃の関わりの中で、家族とは面会時や定期連絡時に意見・要望の聴き取りを行なっている。意見や要望については職員間で話し合い、運営に反映されている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	フロア会議、フロア長会議、全体会議等を定期的に行い、意見、提案を話す、聞く機会がある。全体会議は、本部職員と代表も参加している。	各定例会議時に意見・提案を聴きとられている。また、言いやすい職場環境がつけられ、活発に意見・提案が行なわれ、レクリエーション企画や備品購入など具体化されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各自が向上心を持って働けるよう資格取得に向け、資格取得支援助成金制度がある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社外の研修は職員の力量にあわせ適任者を選し様々な研修を受ける機会がある。年6回ケアに関する様々な観点からの社内研修を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者よりの訪問などの受け入れは行っているが、当事業所より働きかけはしていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者の訴えを傾聴し出来る限りの支援を行う旨話している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	困っている事、不安なこと、要望など聞き取りできる限り、意向に沿ったサービスの提供に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	車椅子、靴の選択やマットレスのレンタル等利用者の状況にあわせた福祉用具を手配している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食器拭き、洗濯物たたみ、掃除、草取りなど、本人が意欲的に取り組みやりがいもてるよう支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や電話があった際に日々の様子を伝え、家族の話も聞き、相互理解、意志の疎通に努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者の馴染みの方の面会時など、職員も一緒に暖かく迎え楽しい一時を過ごしていただけるよう配慮している。	地域の八幡神社への初詣でや知人の面会、馴染みの人への手紙や電話連絡など関係継続への支援に取り組まれている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	話好きな利用者の近くには話の出来る利用者の席にするなど、コミュニケーションづくりに配慮した環境を工夫している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用時に信頼関係を築き、退去後も必要に応じて協力体制とれるよう努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個々の話を聞き取り、希望、意向に添ったケアに努めている。 困難な事例は、担当者会議で話し合い得心のいこう支援している。	思いや意向の把握が難しい利用者については、居室や夜勤の時間帯を利用し1対1の場をつくり、時間をかけ汲みとるよう努め、利用者本位に取り組まれている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人ひとりのフェイスシートで基本的な情報を得、会話の中でこれまでの暮らし方の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送り、職員の連絡ノートで一日の過ごし方など情報の共有に努めている。体調管理は日々バイタルを測定記録し把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	フロアで担当者会議をし、職員間での意見交換や時には家族を交えての話し合いをもち、現状に即した支援計画づくりに努めている。	利用者・家族・系列医療法人の医師・看護師と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録、申し送り、連絡ノートなどを記録し情報を共有し実践につなげ介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	施設で対応できる範囲で支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	月1回、地域のボランティアの方が来所し利用者と一緒に歌や踊りをやっている。地域のお茶のみ会に職員同行で参加し施設以外の人とふれあえる機会をつくっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	内科医による2週間に1回の往診と、認知症内科医による月2回、歯科医師が週1回往診がある。家族の希望と状態にあった適切な診察が受けられるよう支援している。	入居時に利用者や家族の希望を尊重し、医療機関の選択をしていただいている。専門医等かかりつけ医の受診支援も適宜行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師に情報を伝え、その時々にあわせた看護や相談を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した際は、病院の相談員と連絡をとりあい、情報交換や相談に努めている。職員も見舞いに行くなどし、関係作りにつとめている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事業所でできることを十分説明し、対応を連絡する。現在該当者はおらず、看取り、ターミナルケアは考えてない。	入居時に重度化・終末期についての話し合いが持たれ、利用者・家族と意志統一を図られている。その後の対応も早い段階から話し合いを行ない、意志確認を進めながら、希望に沿った最大限のケアに向けた取り組みが行なわれている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルは整備している。応急処置やAEDの使用法などの研修は受けているが全員が実践力を身につけていない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防訓練などで実施している。地域との協力体制は回覧板で知らせてある。	年2回の避難訓練を実施し、夜間の発生を想定しての訓練にも取り組まれている。地域住民との合同訓練も計画されていたが、参加は得られておらず今後の課題とし、継続的に取り組みを検討されている。	災害発生は予測不可能なことで職員だけの避難誘導には限界があると想定されることから、地域住民との合同訓練の実施と協力員の確保に向けた取り組みを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ゆっくり分かり易い言葉を使う、その人にあった声かけ、丁寧な言葉を使う、やさしい言葉かけをすることを心がけている。	利用者の人格を尊重した対応と個人情報の責任ある取り扱い、排泄や入浴時の羞恥心に対する配慮などきめ細かな対応がとられている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	思いや希望を表せるよう、わかる力に合わせた声かけをおこない、自己決定の支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	レクは自由参加で、個々の希望に従った過ごし方を支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服のコーディネートなど、本人の希望にそった服選びを支援している。 理美容は定期的に来ており、本人の意向を聞きながら行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理は職員と一緒にできないが、簡単な下拵えや下膳、食器拭きなど手伝いしている。	利用者個々の力に合わせ、食事の準備や片付けを職員と共に行っている。また、利用者の希望に沿い、定期的に外食や出前、流しそうめんなど職員と共に楽しまれている。また、菜園で収穫した季節の野菜も食事に提供され喜ばれている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食材は外注しており栄養バランスやカロリーは確保されている。医療により水分制限のある利用者は、摂取量を管理している。飲み物を幾種類か用意し、摂取量の確保に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの能力にあわせそれに応じた口腔ケアを支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のパターンを把握し、声かけを行う、トイレの場所は分かりやすいよう表示している。	一人ひとりの力や排泄パターン・習慣を把握して、適宜、声かけを行い、トイレでの排泄や自立にむけた支援が行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	医師に相談し、乳製品を摂ったり、レク時に運動をとりいれたり、食事をバランス良く摂取するよう働きかけている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	状況の許容範囲内で本人の希望にそった入浴をこころがけている。	入浴日や時間は設定されているが、利用者の希望に沿った支援をされている。ゆっくり入浴される利用者については順番を考慮し対応されるほか、入浴剤なども使用し、楽しまれている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安らかな眠りか確保できるよう、不安を感じているような時は、十分話を聞き不安を取り除くよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は薬の効果、服用の注意など説明書を読み理解している。薬の管理は職員が行い服薬支援している。処方箋変更時は特に注意をはらい変化の確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴から推し測り、草取り、掃除、食器拭きなど役割を担って頂いている。書道、塗り絵、手工芸などの楽しみごとへの支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的に散歩を行っている。庭での活動を行っている。アクティビティ計画で車をつかった遠出なども行っている。	プランクやすべり台があり、小さな子供に会える公園に出かけるほか、散歩の為に数コースが設定され、利用者の希望に沿った日常的な散歩を楽しまれている。また、淡水魚水族館や道の駅ほか、高齢者ふれあいサロンへの訪問や外食なども計画的に行なわれている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人が管理している利用者はいない。小口現金を預かっているので、要望があれば、買い物など、支援行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は職員がかけ本人に取り次いでいる。手紙が来た際は本人に渡している。手紙を書くよう支援に努めている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースには季節の花を飾り季節感をだしたり、利用者が作成した作品を飾るなどしている。	利用者にとって不快や混乱を起こさぬよう、室温・音などきめ細かな配慮がとられている。また、季節感ある貼り絵やぬり絵などが飾られ、明るく清潔感のある共用空間づくりがなされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファを置くなどして、利用者が選択する余地がある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内の家具等は本人と家族が選んだものを置き、使い慣れた品やテレビ等持込み、居心地よく過ごせるようにしている。	家族旅行の思い出の写真が飾られているほか、馴染みの机や椅子、趣味のゲートボール用具などが持ち込まれ、利用者が居心地良く過ごせるよう工夫されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の見当識を効果的に支援するため、トイレ等図柄を活用している。		

## 目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	災害発生は予測不可能な事と職員だけの避難誘導には限界がある。年2回の避難訓練を実施しているが、今後は地域住民との合同訓練を実施して協力員の確保と合同訓練の継続的な取り組みが必要である。	緊急時に備えて、日頃から地域との応援協力体制について、連携をとり、避難誘導・初期消火・情報伝達など協働による防災組織を作る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の防災活動に積極的に参加しつながりを深めていく環境づくりにつとめる。</li> <li>・地域推進会議で説明し自治会区長、民生委員に協力を求める。</li> <li>・消防訓練への地域住民の参加協力依頼をする。</li> <li>・ハザードマップを作る。</li> </ul>	3ヶ月
2					ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。